

**令和7年度
沖縄こどもの貧困緊急対策事業
分析・評価・普及事業 調査報告**

一般社団法人 こども未来社会研究所

目次

1. 調査概要
2. 連携手法分析 調査結果
3. スクリーニング普及拡大に関わる活動報告
4. 総合考察

目次

1. 調査概要

2. 連携手法分析 調査結果

3. スクリーニング普及拡大に関わる活動報告

4. 総合考察

◆ 調査の目的

子どもたちの未来が生まれ育った環境によって左右されることなく、自分の可能性を追求できる社会の実現を目指し、沖縄子供の貧困緊急対策事業の効果的な実施のため、沖縄県内の子どもの貧困の状況を把握することを目的とする

◆ 調査種別

(1) 連携手法分析

(2) スクリーニング普及拡大に関わる活動報告

◆ 調査実施主体

沖縄県(こども未来部こども家庭課)

◆ 調査研究業務受託者

一般社団法人 こども未来社会研究所

目次

1. 調査概要

2. 連携手法分析 調査結果

3. スクリーニング普及拡大に関わる活動報告

4. 総合考察

調査の目的

- ◆義務教育ですべての子どもが通う学校において様々な問題につながる可能性のある経済的なリスクを発見し、支援事業につなぐことができないか検討する。
- ◆ツールとして、文部科学省も推奨している(文科省2020)大阪公立大学山野研究室で開発しているYOSS(Youngsters' Obstacles Screening System)を活用する(山野ほか2020)。
- ◆沖縄県におけるモデル校(今年度は小学校のみ)において、すべての子どもを対象にスクリーニング会議にかけて、貧困や様々な困難を抱える子どもを早期に校内で発見する。

調査の対象と方法

- ◆スクリーニング実施自治体として糸満市と南城市および浦添市を対象とし、各市の教育委員会協力のもと、調査を実施した。
- ◆YOSSクラウドサービスを利用中である糸満市の小学校10校、南城市の小学校6校、浦添市の小学校1校のデータを分析に用いた。
- ◆入力されたデータ(今年度2回分)を集計し、昨年度との比較および詳細な分析を行った。



- ・全児童での比較
- ・経済的に家庭状況が厳しい子どもにおける比較
- ・経済的に家庭状況が厳しい子どもの詳細な分析

学校版スクリーニング YOSSについて



- ◆ 支援が必要な児童生徒を抽出(チーム会議にあげる)し、支援の方向性を自動(AI)判定
- ◆ スクリーニングのために入力する項目は計33項目(+学校独自項目)
 - 学級担任を中心に子どもと関わる教員は、欠席や遅刻・友人関係・授業中の様子など学校適応や学習、家庭状況について15項目
 - 特別支援担当者は支援学級の在籍等について2項目
 - 養護教諭は成長などの健康について4項目
 - 事務は要保護や諸費について2項目
 - 管理職・生徒指導担当者はこれまでのスクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSW)との関わりについて3項目、地域担当者は学童保育利用などについて5項目、いじめアンケート調査などについて2項目

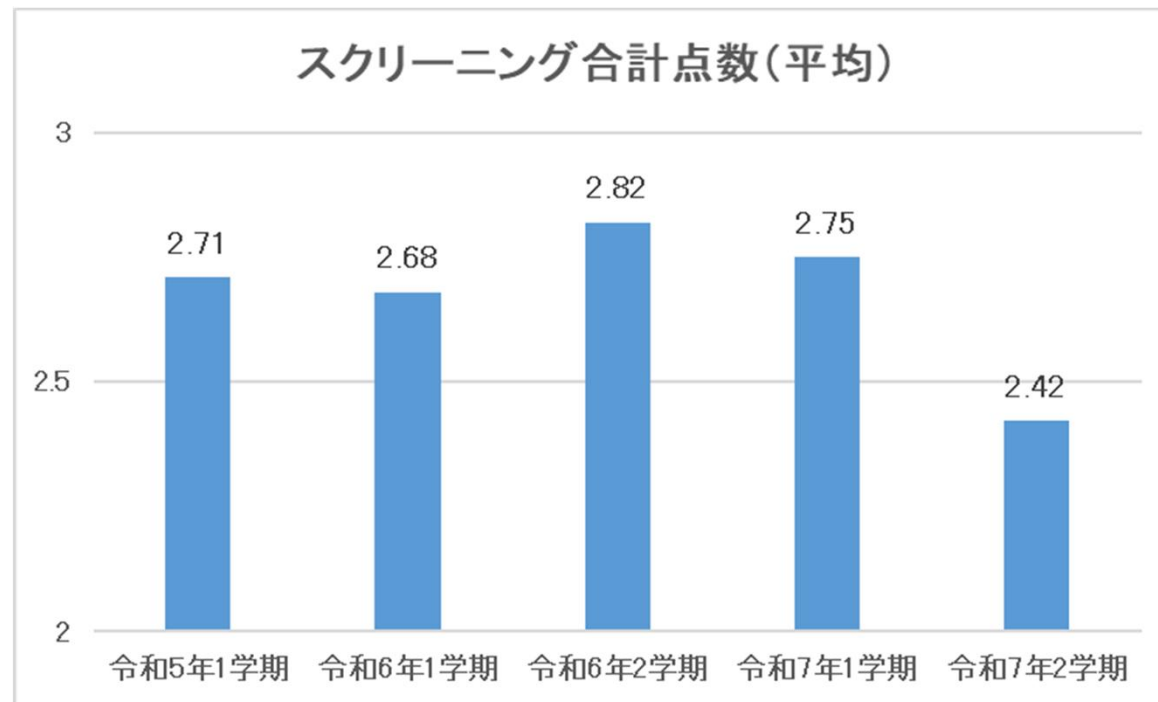
調査結果① ～今年度のスクリーニング結果～

全児童および学年別スクリーニング合計点数(平均)

1学期	小学生全体 (n=6329) 合計点の範囲：0点～39点；合計点の平均値=2.75						
	学年	1年生 (n=1014)	2年生 (n=1036)	3年生 (n=1073)	4年生 (n=1057)	5年生 (n=1062)	6年生 (n=1087)
	平均値	2.02	2.45	2.81	3.04	3.18	2.97
2学期	小学生全体 (n=6916) 合計点の範囲：0点～29点；合計点の平均値=2.42						
	学年	1年生 (n=1120)	2年生 (n=1141)	3年生 (n=1165)	4年生 (n=1156)	5年生 (n=1164)	6年生 (n=1170)
	平均値	2.12	2.07	2.38	2.75	2.82	2.36

- 調査対象は1学期が6,329人、2学期が6,916人であった。
- 1学期と比較して2学期で点数のわずかな減少がみられた。

調査結果① ～過去年度との全体の比較～



- 昨年度と比較して、点数の減少傾向が見られた。
- 今年度2学期は過去3年間でスクリーニング合計点数が最も低かった。

調査結果② ～家庭状況の厳しい子どもについての検討～

令和5年度	要保護・準要保護	諸費滞納	要保護・準要保護かつ諸費	項目全体
人数	636 (11.4)	96 (1.7)	72 (1.3)	5575 (100)
平均値	4.94	9.22	12.50	2.71



令和6年度	要保護・準要保護	諸費滞納	要保護・準要保護かつ諸費	項目全体
人数 (%)	832 (13.1)	110 (1.7)	68 (1.1)	6347 (100)
平均値	5.35	8.74	12.49	2.82



令和7年度	要保護・準要保護	諸費	要保護・準要保護かつ諸費	項目全体
人数 (%)	777 (11.2)	80 (1.2)	55 (0.80)	6916 (100)
平均値	5.48	7.56	10.82	2.42

- 過去年度と同様、「要保護・準要保護」や「諸費滞納」にチェックが付けられた子どもは、全体と比べて点数が高かった。

- 「要保護・準要保護」と「諸費滞納」の両方にチェックが付けられた児童の割合は、過去年度と比較してわずかに減少していた。

- スクリーニング合計点数についても、減少傾向が見られた。



- 家庭状況が厳しい子どもについては、依然として多くの課題を抱えているが、その一方で改善していることが明らかとなった。

調査結果③ ～経済状況の厳しい子どもについての詳細～

- 対象は1・2学期のデータを紐づけることができた6,235人
- チーム会議にあがった児童のうち、家庭の経済状況によって抱えている課題の特徴を分析した。

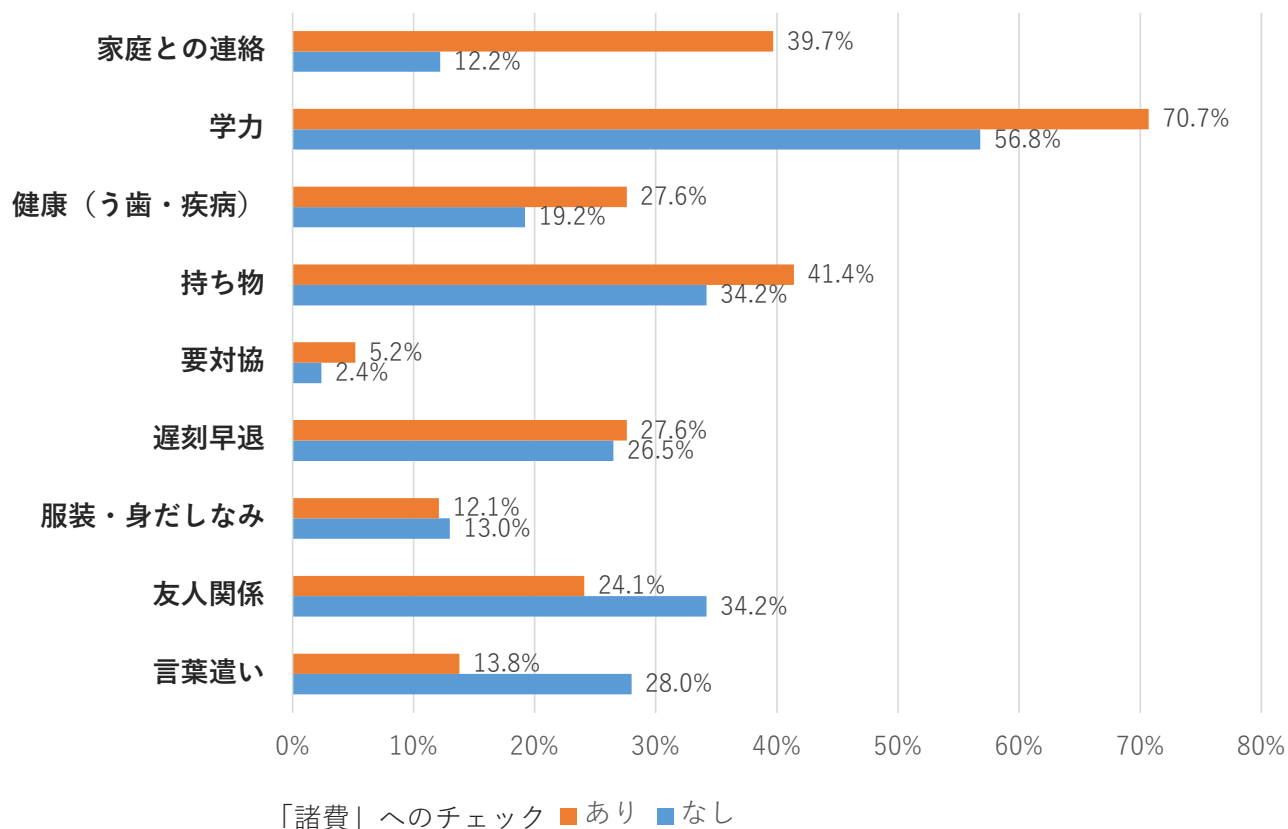
<「諸費」のチェック記入状況>

	2学期なし	2学期あり
1学期なし	6048	71
1学期あり	58	58

(人数)

- 1学期に「諸費」にチェックが付いていた児童116人のうち、2学期も「諸費」にチェックが付いていたのは半数の58人であった。
- 2学期に「諸費」に新たにチェックが付いた児童は71人であり、合計数では1学期に比べ2学期の方が少し増加していた。

「諸費」のチェックの有無で分けた各スクリーニング項目のチェック割合
(チーム会議にあがった児童を対象)



- 「家庭との連絡」「学力」「健康(う歯・疾病)」の項目で、「諸費」にチェックが付いていた児童のほうが割合が比較的大きかった。
- 「遅刻早退」「服装・身だしなみ」では大きな違いは見られなかった。



家庭の経済状況が子どもの学力や健康状態の悪化に影響を与えている可能性がある

調査結果のまとめ

- ◆ 全児童のスクリーニング点数(チェック数)は昨年と比較してやや減少しており、2学期では過去3年間で最低となるという成果があった。
- ◆ 経済的に家庭状況の厳しい(「要保護・準要保護」「諸費滞納」にチェックがある)子どもについては、過去年度と比較してスクリーニング点数が減少してきており、改善の傾向が見られた。
- ◆ 経済的に家庭状況の厳しい子どもは、特に「家庭との連絡」が取りづらく、学力や健康の問題を悪化させる可能性がある。

目次

1. 調査概要
2. 連携手法分析 調査結果
3. スクリーニング普及拡大に関わる活動報告
4. 総合考察

スクリーニング普及拡大に関わる活動報告

◆自治体導入支援

◆YOSSサポート支援

◆YOSSマイスター養成講座の開催

◆新規自治体への普及支援

自治体導入支援

- ◆ 5月19日糸満市・5月20日南城市・7月29日浦添市の3自治体において、YOSSを新しく担当する教員を対象に現地で導入研修会を行った。
- ◆ 糸満市では、中学校席の参加など広がりがあった。活発な意見交換の時間を持つことができた。
- ◆ 南城市には、他の自治体からの見学が複数あり、のちに導入に繋がった自治体が生まれた。

YOSSサポート支援

- ◆ 5月19日糸満市・5月20日南城市・7月29日浦添市の3自治体において、YOSSを新しく担当する教員を対象に現地で導入研修会を行った。
- ◆ 糸満市では、中学校席の参加など広がりがあった。活発な意見交換の時間を持つことができた。詳細は次頁。
- ◆ 南城市には、他の自治体からの見学が複数あり、のちに導入に繋がった自治体生まれた。詳細は次頁。
- ◆ 2026年1月沖縄にて、聞き取りを行い、現状把握し、YOSS進捗における課題（福祉につないだ後の状況把握、大規模校の進行に関する事など）、システムの課題を把握した。

活動の詳細＜南城市＞

- ◆ 4月23日、南城市スクリーニング全体研修会に向けての事前打合せ(オンライン)を実施。
- ◆ 5月20日、南城市スクリーニング全体研修会(@南城市役所)を実施した。50名以上の参加に加えて、他の自治体からの見学者も多く、また参加される先生から事前に研究内容への要望が出される等、昨年度以上にスクリーニングへの関心の高さを感じた。
- ◆ 南城市から第5回YOSS®マイスター養成講座に6名参加いただいた。
- ◆ スクリーニングコーディネーターを中心として、YOSSについて多くのお問合せやご助言をいただき、サポートと同時にYOSSの開発に役立てた。

活動の詳細＜糸満市＞

- ◆ 5月1日、糸満市小学校スクリーニング担当者研修に向けての事前打合せ（オンライン）を実施。
- ◆ 5月19日、糸満市小学校スクリーニング担当者研修（@糸満市役所）を実施した。20名以上の参加に加えて、糸満市以外から見学に来られた方もおり、昨年に引き続きスクリーニングへの関心の高さを感じた。
- ◆ 6月12日、糸満市でのYOSSクラウドサービスの活用について、動画撮影にご協力いただき、YOSS導入自治体の研修に活用している。
- ◆ 糸満市から第5回YOSS®マイスター養成講座に11名参加いただいた。
- ◆ こども支援コーディネーターを中心として、YOSSについて多くのお問合せやご助言をいただき、サポートと同時にYOSSの開発に役立てた。

活動の詳細＜浦添市＞

- ◆ 7月15日、浦添市YOSS導入研修に向けての事前打合せ(オンライン)
- ◆ 7月29日、浦添市YOSS導入研修(@牧港小学校)を実施した。当日はYOSSのデモサイトを用意し、参加された先生方に実際にYOSSクラウドサービスを体験していただいた。
- ◆ 浦添市から第5回YOSS®マイスター養成講座に12名参加いただいた。

浦添市様もYOSSを上手く活用できるよう、何か困ったことや上手な活用法などがあれば、いつでもご連絡下さい。

YOSSマイスター養成講座

- ◆ 8月19日～8月20日に、糸満市にて「第5回YOSS®マイスター養成講座」を開催した。
- ◆ 12月25日～12月26日にオンラインで実施した「第6回YOSS®マイスター養成講座」の受講生が、すでに導入している学校のYOSS会議を見学に行き、所属自治体への導入の具体的な検討につながった。
- ◆ 導入校以外の自治体（伊江村、沖縄市、那覇市、コザ高校、沖縄県立高校、NPO）の参加もあった。



新規自治体への普及支援

- ◆ 恩納村、今帰仁村、名護市、嘉手納町へ訪問し、説明と課題の議論を行った。
- ◆ 国頭村、宜野座村、南大東村、北大東村、豊見城市へ訪問し、説明と課題の議論を行った。
- ◆ その後、2月に国頭村からの視察を受けた。

計10市町村、さらに浦添市の新規導入検討校への説明と課題の議論を行った。

今後の課題

- 昨年度から引き続いての課題は、
 - ①学校内におけるキーパーソンの養成
 - ②行政においてスクリーニングを導入し定着させる人材の確保
 - ③教育DX化においてスムーズなシステム構築が行えるネットワーク環境
 - ④新規導入の際のネック: 地域資源の少ない小規模自治体や離島での導入問題

今後の課題

①学校内におけるキーパーソンの養成

②行政においてスクリーニングを導入し定着させる人材の確保

→ ・YOSS®マイスター養成講座を沖縄県内で実施したことに加え、オンラインでも実施できたことで、県内の多くの自治体に広まる可能性が高まった。

③教育DX化においてスムーズなシステム構築が行えるネットワーク環境

→ ・R8年度はクラウドシステムの使い勝手が改善する見込みであり、校務支援システムとの連携に向けても取り組んでいく予定である。

目次

1. 調査概要
2. 連携手法分析 調査結果
3. スクリーニング普及拡大に関わる活動報告
4. 総合考察

連携手法分析より

- ◆ 児童全体で見ると、昨年度と比較して点数（気になる項目のチェック数）は減少傾向であった。
 - 全体として現場の教員がYOSSを活用しつつ児童生徒をよく観察し、早め早めに対応していたことが良い結果につながったと考えられる。
 - 今年度はYOSSクラウドサービス導入3年目であるが、AI判定がされていない等、現場ではYOSSをまだ上手く活用できていない部分もあるため、次年度以降も引き続きさらなるサポートが必要である。
- ◆ 経済状況が厳しい世帯の子どもの特徴として、家庭との連絡がとりづらく、学力や健康に課題を抱えている割合が大きかった。
 - 家庭との連絡の取りづらさが特に健康に影響を与えている可能性もあり、早期の対策が必要である。

スクリーニングの普及拡大に関わる活動より

- ◆ 今年度は沖縄県から多くの方がマイスター講座に参加されたこともあって多くの成果がみられるとともに、地域や行政を巻き込みながら子どもを支援する体制が定着してきていることは評価できる。
- ◆ 先ほど述べた沖縄県における課題は、全国共通の課題でもあり、「こども未来創造プラットフォーム」内でも協議していくと同時に、沖縄県で得られた取り組みの成果を反映していくことが重要である。

ご清聴ありがとうございました